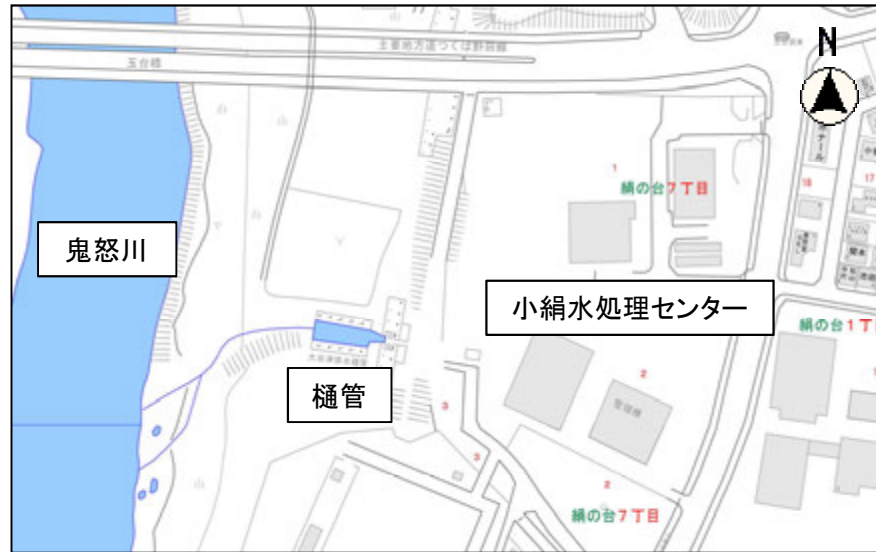


処理水溢水対策の効果事例（令和元年台風19号）

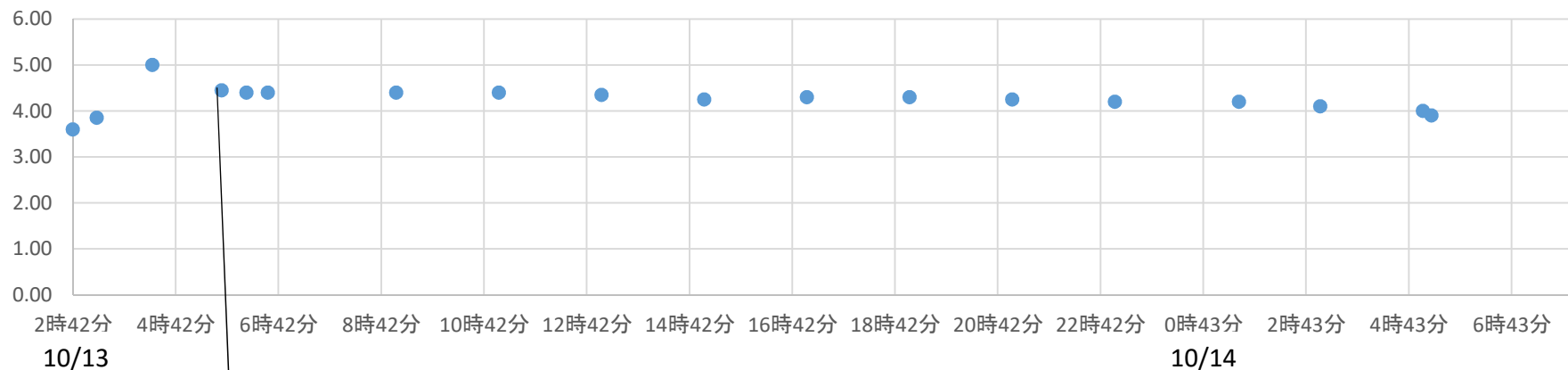
茨城県つくばみらい市

- 令和元年の台風19号時、つくばみらい市小絹水処理センター脇の鬼怒川に繋がる樋管が閉じられたため、処理水が鬼怒川に放流出来ず、溢水する恐れがあった。
- 民間企業と協力し、ポンプを用いて処理水を鬼怒川に放流した。
- 結果、処理水の溢水を防止することが出来た。



ポンプ稼働状況
(8インチ×2台)

放流ピット内の水位(m)



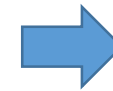
8インチポンプ 2台投入

官民連携した浸水対策の効果事例

- 開発が進む藤沢市遠藤地区では、放流先の一級河川小出川が計画降雨に対応しておらず、たびたび浸水被害が発生。河川の整備完了は数十年先であり開発完了後も浸水被害が発生することが想定された。
- 市が慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス周辺を改正下水道法に基づく浸水被害対策区域に指定。病院建設に合わせ、特定地域都市浸水被害対策事業として病院駐車場に雨水貯留施設を病院事業者が整備。
- その整備に対して、国・市が事業費の1/3をそれぞれ補助（貯留容量1,835m³のうち585m³が補助対象）。
- 放流先河川の整備に長期間を要し、浸水対策の見通しが立たない中、民間ストックを活用した効率的な対策が図れた。
- 下水道管理者によらない施設整備のため、下水道管理者のストックを増やさず安価に流出抑制が実施できた。



計画対象区域図



浸水状況写真



完成後イメージ図

官民連携した浸水対策の効果事例

兵庫県西脇市

- 西脇市黒田庄町福地地区では、平成25年台風第18号で、約20haが浸水し、道路やJR線路の冠水のほか、住宅では床上浸水4戸、床下浸水31戸と大きな被害が発生。
- このため、「ながす」と「ためる」と「**そなえる**」をあわせた**総合治水**を基本とした、**地域と一体となった浸水対策計画**を策定し、平成28年度に整備を完了。
- 平成30年7月豪雨による出水では、浸水被害のあった平成25年の台風第18号を上回る累加雨量であったが、地元の**そなえる対策（事前防災行動）**も加わり、**住宅の浸水戸数は「ゼロ」**になった。

